

小田裕三先生が描いた潮見小学校（1985年）



小田先生は潮見小学校の第15代校長（昭和52年・53年）でした。

昭和の懐かしい校舎が展示されている
水彩画展
佐世保市、島瀬美術センター

佐世保市内の小中学校の景色を描いた「ぼくとわたしの学校」展が、同市島瀬町の島瀬美術センターで開かれている。21日まで。入場無料。統廃合で閉校となった庵浦小など6校を含む市内42校の校舎の水彩画が、来

ぼくとわたしの学校 小田裕三が描く水彩画の世界展

懐かしい昭和の風景

佐世保・21日まで

場者のノスタルジーを誘っている。小田さんは同市出身。美術教諭として小中学校で指導をしながら、30歳で本格的に水彩画の創作を始めた。市立清水中学校長の時に各校を回り、教員ならではの視線で昭和の学校を描いた。2009年死去。

同センターによると、作品は各校の特徴的な角度から描かれているという。浅子小中の風景は漁船が浮かぶ先に校舎が見え、柚木小は急坂と山に囲まれているなど、見る人が自分の母校だとすぐに分かるという。

少子化に伴い、市内でも統廃合が進んだ。同センター学芸員の大神理英子さん（46）は「水彩画で残したいとの思いがあったのでは。月日の流れとともに変わってしまう風景と変わらない風景を見ながら、当時の記憶を思い出してもらえたら」と話した。

（林田友広）

6月10日付 長崎新聞でも紹介されていました。